

宝塚大学 東京メディア芸術学部

NEWS LETTER

Vol.116 | 2023.4 | TAKE FREE

Annual events

宝塚大学の年間行事を知ろう！

Featured person in TAKARAZUKA 古瀬登ゼミ 森浦有唯 & 樋口真嗣特任教授

づからいふ 第7話 若さは宝 / HOT TOPICS

Moriura Yui

森浦有唯

東京都出身
2003年生まれ
東京都立新宿山吹高等学校卒業
古瀬登ゼミ 3年生

Featured person in TAKARAZUKA

先輩と先生に注目して宝塚大学を知ろう！

4年間かけてじっくり取り組めるところが魅力

高校時代からアニメは好きでしたが、一番観たかったTOKYO MXが家のテレビでは映らなかったこともあり、イラストのほうに興味が湧きました。進学先を考え始めたのはコロナ禍でしたが、宝塚大学のオープンキャンパスに参加したところ、1年次では分野に縛られることなく、「描くこと」から教えてくれると知って入学を決めました。

性格的にもバツと動けるタイプではないので、4年間じっくり取り組みたいという気持ちがありました。実際に入学してみると、実績のある先生のもとで学べることが幅広くあり、この大学を選んで間違いなかったと感じました。



実際のアニメ制作を通して身に付いたこと

1年次の夏休みに「CLIP STUDIO PAINT」というソフトでアニメが作れる事を知り、軽い気持ちで制作を始めました。そこで実際に作画から演出、美術など、アニメのさまざまな工程をやってみるうちに、「アニメの制作って面白い」と改めて感じ、一層真剣に取り組むようになりました。

宝塚大学のアニメーション分野では、卒業するまでに3本のアニメを制作します。2年次

になると早速、グループ制作の授業が始まりました。1年かけてなんとか作品を作り終えたのですが、実感したのは、アニメの制作は共同作業ということ。それまで私は、「絵を描く担当だから」と他の作業をよく知らずにいたのですが、グループ制作では、お互いの進歩を確認したり、相談してすり合わせたりということが本当に大切だと分かりました。プロのアニメーターの仕事はこうやって進められているのだと分かったのは、貴重な体験でした。

プロのアニメーターとしての魅せ方が学べる

今一番熱中しているのは、レイアウトの勉強です。同じ絵でもレイアウトによって受ける印象が違うことが分かってきましたし、「効果的なレイアウトは何か?」「どうやったらより視聴者に伝わるか?」そういうことを考える時間がすごく樂しいです。

所属ゼミの古瀬登先生からは課題について鋭い指摘をもらいます。プロとしてキャリアを積んできた方なので抜群に作画の技術が高く、そんな先生に直接意見をいただけるのは本当に貴重だなと思っています。

卒業後の目標は、アニメーターとして素敵な作品を届けたいということと、絵を描くことで自立した生活を送るということ。今はまだ、プロのアニメーターさんの作品を見て「どうしたらあのよう描けるのだろう」と焦る気持ちが大きいのですが、いつか私も視聴者に楽しんでもらえるようなアニメーター、さらに「これは森浦さんの絵だ」と覚えてもらえるようなアニメーターになりたいと思っています。

撮影や編集の作業はデジタルで行われるので、これからはパソコンソフトの使い方を学び、デジタル作品をたくさん制作していくことを思っています。

My Favorite

人物描写基礎

担当教員：安田 隆浩 講師

クロッキーの実技を通して、モノのとらえ方や観察眼を磨きます

実際にモデルの方を見ながらクロッキーを描く授業です。限られた時間の中で、いかに対象の特徴をとらえるかがポイントなのですが、視覚から得られた情報を取捨選択し、無駄のない線を引くことがとても難しいです。それでも、ボーズ絵のストップを増やすというだけでなく、モノのとらえ方や観察の仕方を学ぶことが出来るので、「これだ!」と思えるような線が引けたときはとても嬉しいです。

アニメーターにとってクロッキーの実力は重要で、仕事のポートフォリオにもクロッキーを入れることができるので、もっと上手く描けるようになりたいと、今も勉強中です。

Career Introduction

経歴紹介

日本のエンタメ界をけん引するトップランナー

1984年『ゴジラ』にて映画界入り。1995年『ガメラ 大怪獣空中決戦』で特技監督を務め、第19回日本アカデミー賞特別賞を受賞。他に、『新世紀エヴァンゲリオン』シリーズなど数多くのヒット映画作品に画コンテやイメージボードとして参加。

主な監督作品は『ローレライ』、『日本沈没』、『のぼうの城』、実写版『進撃の巨人』、『シン・ウルトラマン』など。

2016年公開の『シン・ゴジラ』では監督と特技監督を務め、第40回日本アカデミー賞最優秀作品賞と最優秀監督賞を受賞。

樋口真嗣 特任教授の近著

『樋口真嗣 特撮野帳 - 映像プラン・スケッチ』

出版社：パイインターナショナル

映画が完成したときの達成感は何にも代えがたいもの

宝塚大学ではこれまでに2回特別講義をしているのですが、今年度から年間を通してやりませんかというお話をいただき、特任教授を務めることになりました。映画制作などを多くの仕事をする仕事というには決して楽なことばかりではないですが、その分、完成したときの達成感は何にも代えがたいもの。僕のような仕事に就きたいと考えている人は多いと聞いています。具体的なことはもちろん、仕事をする際の心構えなども伝えることで、こういう道に進む人が一人でも増えればいいなと思っています。

スタッフの台本をこっそり盗み見た二十歳の頃

自分自身の“二十歳の頃”を振り返ると、ろくでもないヤツだったと思います(笑)。映画界には入っていましたが、横入りのような形でしたし、基礎を学んでいたわけでもない。将来のことなんて何も考えてなかったですね。ただ今になって振り返ると、これが目標がなかったのが、逆に良かったのかもしれないなど。目の前の仕事に夢中になって、「これはどうやってやるのだろう」と思ったら、スタッフが席を外している間に台本をこっそり盗み見たり、「なるほど、こうやるのか」と分かったら、今度は「こうしたらもっといいんじゃないか」と自分で考えたり。そういうことを積み重ねていくことで、次第に自信のようなものがついてきたように思います。

授業ではどんなことでもいいので質問しに来てほしい

もちろん、授業では僕の分かることなら何でも教えると思ってるので、「盗め」とは言いません(笑)。

その代わり、受講する学生は、どんなことでもいいので質問しに来てほしい。授業を始めるにあたって、「何をどうやって伝えようか」と考えているところなので、具体的に質問をもらうことで、内容を固めていきたいですね。

あとは、二十歳前後はいちばん可能性がある時期。こういう仕事をしたいとか、こういう人になれるかもという可能性は、年を重ねると段々狭まっていきます。せっかく大学の4年間があるので、とにかくいろいろなものを見て聴いて、今のうちにたくさんの影響を受けておいてください。その母数が多くなるほど、将来の選択肢は広がっていくはずなので。

作品を受け取る側ではなく、送り届ける側を目指して

結局、クリエイターの道を選ぶ人にとつて大切なのは、“心で感じる部分”。よく「目標から逆算して動くのが大事」なんて聞きますが、クリエイターはそんな計算を超えた、才能の部分を武器にしなきゃいけないのだと思います。

この大学に通っているなら、皆さん作品を受け取る側ではなく、送り届ける側を目指しているはず。それなら本気でやりたいことを探して、「これでもくらえ!」と世の中に送り出すぐらいの気持ちが必要だと思います。

ただ、この4年間でやりたいことが変わったり、見つからなかったりしても、焦らなくて大丈夫。僕だってこの道で進もうとはっきり意識したのは、20代の半ばでしたから。まずはどんどんやってみる。そうやって前に進もうとしているたくさんの学生と出会えることを、楽しみにしています。

宝塚大学公式 YouTube チャンネル
森浦有唯さんのインタビューはこちらから

宝塚大学の日常をゆるっとお届け

づかうらいふ

第7話 若さは宝



作：鬚鬼ゆうすけ（本学教務助手）

宝塚大学
OPEN CAMPUS
2023

詳しくは右下二次元コード
から大学公式サイトへ！

年間
スケジュール

6.11 [日]
10:00-13:00

入試特化型

8.25 [金]
10:00-16:00

7.9 [日]
10:00-16:00

10:00-16:00

8.26 [土]
10:00-16:00

7.29 [土]
10:00-16:00

10:00-13:00

10.14 [土]
10:00-13:00

11.4 [土]
10:00-13:00

HOT TOPICS

宝塚大学の最新ニュースをcheck!

●『キミガシネ - 多数決デスゲーム -』コミカライズ第4巻発売！●

マンガ分野2013年卒業生のナンキダイさん製作の『キミガシネ多数決デスゲーム』コミカライズ第4巻が、1月26日(木)にKADOKAWAより発売されました。

月刊少年エースにて連載中で原作者であるナンキダイさんは、ソナリオ作成からこれまで担当しています。

同ゲームは「RPGアツマール」で配信され400万プレイヤーを突破し、ゲーム実況動画は累計3000万再生を超えています。



●『CP+2023』で、神林研究室の学生が作品展示●



2月23日(木・祝)～26日(日)に、カメラと写真映像のワールドプレミアショウ『CP+2023』(主催：一般社団法人CIPA)の「ミニユニークションスペース」「わたしの自由区」で、神林研究室の4年生が作品を展示しました。

CP+は写真や映像の楽しさを見て、触って、仲間と共に感できる「世界中のカメラファンが集まるイベント」で、学生の作品が学内外の方の目に触れる機会となりました。

●新宿区健康部健康づくり課とデザイン制作したキャラクターが「しんじゅく情報局」で紹介●

3月5日(日)より、J:COMや新宿区YouTubeチャンネル等で放送される新宿区広報番組「しんじゅく情報局」で、新宿区健康部健康づくり課と本学の学生が協働でデザイン制作したキャラクター「ケンゾウ・こころ・菜々」が紹介されました。本学と新宿区健康部は2016年に連携協定を締結、2022年には新宿区と包括連携協定を結び、さまざまな地域連携活動を進めています。



●「区民の健康づくり」ポスター制作課題の成果を展示！●

本学1年生の必修科目「表現実践」では、地域連携事業の一環として、新宿区からの課題に学生が取り組むPBL(Project-Based Learning)型授業を行なっており、「区民の健康づくり」のための啓発ポスターの依頼を受け、学生がグループで課題に取り組みました。その成果を3月13日(月)から24日(金)まで、新宿スポーツセンターにて展示しました。

